

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 佐用町

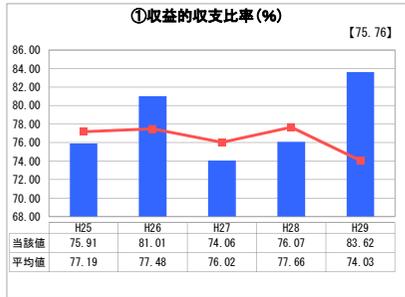
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	99.95	3,402	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,354	307.44	56.45
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
13,058	44.00	296.77

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



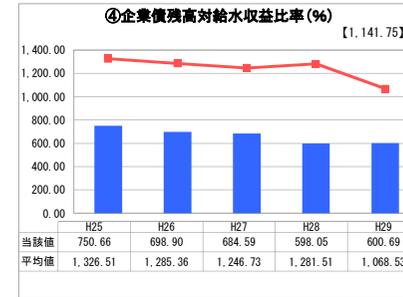
「単年度の収支」



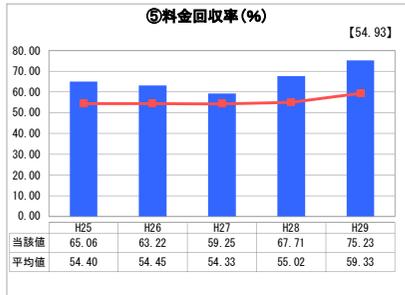
「累積欠損」



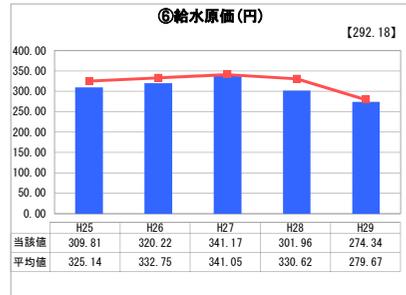
「支払能力」



「債務残高」



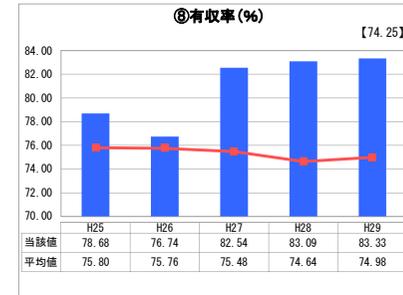
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

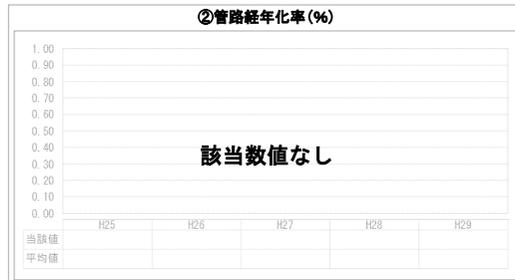


「供給した配水量の効率性」

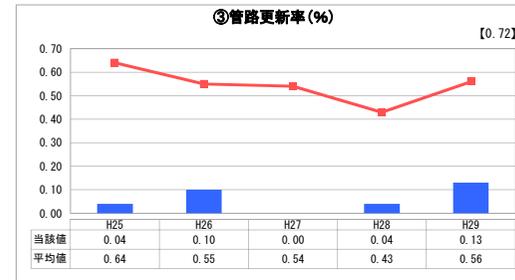
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は平均値・昨年度の数値よりは高くなってはいるものの、今後、維持管理の節減や料金回収を強化していく必要がある。
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比較しても低い。これは新規発行の企業債が減少しているためであるが、今後、老朽化した管路更新に応じて増加していく可能性がある。
 ⑤料金回収率は平均値より高く、昨年度よりも高くなっているが、一般会計からの財源に依存しているのが現状である。
 ⑥給水原価は今年度は類似団体と比較して低いが、今後、料金回収率や住民サービスの向上のため、維持管理費の削減といった経営改善の検討を行うことが必要である。

2. 老朽化の状況について

現在のところ、管路移設時等に管路更新を行っているのが現状である。固定資産台帳の整備を行っているところであり、アセットマネジメントの策定、事業統合等を踏まえ、更新計画を検討する。又、漏水事故が多い箇所については、先攻して更新を図っていく。

全体総括

山間地という不利な立地条件のため、住居が点在しており、送水にかかるコストが、都市部など人口密度が高い地域に比べて割高になるのが避けられない状況である。少子高齢化及び人口減少が進むなか、一般会計の繰入に依存せざるを得ないのが現状である。
 今後は、施設及び管路の更新に向けた計画作成を行い効率的かつ効果的な更新を行う必要がある。また、経営戦略の策定により、長期的な視野のもとで計画的な経営に取り組み、経営改善に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。